3 モデル地域の抽出・整理と取り組み課題の対応方策の検討

本項では、近畿圏において「本物」である地域資源を核とした地域活性化に取り組んでいる地域・組織について検討を行った。

3.1 「本物」を活かした地域づくりモデル地域の抽出

近畿圏で既に「本物」を活かした地域づくりを先進的に実践している地域について、近畿圏の 6 府県と 4 政令市に対し、ヒアリングを実施した上で、6 府県と 4 政令市より推薦のあった地域をモデル地域として抽出し、その取り組み概要等を整理する。

3.1.1 府県及び政令市へのヒアリング結果

モデル地域の抽出に当たって、近畿圏の 6 府県（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県）と4政令市（大阪市、堺市、京都市、神戸市）に対して、「本物」を活かした地域づくりを先進的に実践している地域についてヒアリングを実施した。（府県政令市ヒアリング結果は参考資料-2 に示す。）

ヒアリングは、下記の日程で行い、その結果、8 地域のモデル地区の推薦があり、8 地域を対象に、ヒアリング及び取り組み課題等に関する対応策の検討等を実施する。

表 3.1 府県政令市ヒアリング結果と概要（1）

ﾋｱﾘﾝｸﾞ先	ﾋｱﾘﾝｸﾞ日時	場所	概要
滋賀県	2008/12/11 14:30～15:00	近畿地方整備局	・ 知事の肝いりであり、環境に配慮した生活文化を活かしたツーリズムに取り組んでいる、高島市針江地区の生水（湧水）の郷づくり（かばた）を推薦 ⇒「高島市針江地区の生水（湧水）の郷づくり（かばた）」に決定
京都府	2008/12/22 10:00～10:30	京都府庁	・ 山城地域の宇治茶の郷づくりを推薦 ・ 京都府茶業会議所やほっこりサークル、永谷宗圓翁顕彰会等の活動 ⇒「山城地域の宇治茶の郷づくり」に決定
京都市	2008/12/15 17:00～17:30	近畿地方整備局	・ 都市計画局とまちづくり景観センターが取り組む、うなぎの寝床で有名な「京町屋の街並み保全と再生」 ・ 岡崎の冷泉家の歴史的建造物 ・ 寺社仏閣（ひめだぶき等）の建築を行う宮大工の育成カリキュラム ・ 深草地区の竹林で、維持管理で間伐材した竹細工や西陣織の製作現場 上記地区の推薦があったが、主旨を踏まえ、再検討したいとのこと。 ⇒結果、モデル候補地の推薦はなし

表 3.2 府県政令市ヒアリング結果と概要(2)

ﾋｱﾘﾝｸﾞ先	ﾋｱﾘﾝｸﾞ日時	場所	概要
奈良県	2008/12/11 17:00～18:00	近畿地方整備局	・ 大台ケ原の環境省のプロジェクトがある ・ 燈花会は発展、年中どこでも行う行事になりつつある ・ 県立大の先生が参画し、奈良県東側を縦断するルートで、点在する工房をつなごうとする工房街道とする取り組みがある ・ その他、高取町の街道など“群”として取り組んでいる例が多い 上記地区の推薦があったが、主旨を踏まえ、再検討したいとのこと。 **⇒後日連絡があり、「明日香村の棚田・里山等を活かした地域づくり」を推薦され、決定。**
大阪府	2008/12/11 15:00～16:00	近畿地方整備局	・ 御堂筋の取り組みを推薦 ・ その他、大阪府ミュージアム構想、エコ葡萄のワイン等も挙げられる。 **⇒「御堂筋の取り組み」に決定**
大阪市	2008/12/17 11:00～12:00	近畿地方整備局	・ なにわ伝統野菜にまつわる地域づくり(田辺大根〔幼稚園、小学校などの菜園や家庭菜園で栽培が始まる〕、金時人参、勝間南瓜〔こつまなんきん〕等) ・ 平野郷HOPEゾーン(地域の百館構想〔小さな博物館〕、ドイツと連携しながら細々としたまちづくりを展開し、観光客が増加傾向) ・ 適塾、 四天王寺 ・ 中之島の舟入(荷物の上げ下ろしをする船溜所;大阪市内では中之島のみ存在) ・ 御堂筋は、それをとりまき存在する様々な地域資源があり、風景街道(中之島・大川・御堂筋回廊)であり、綿業会館(重要文化財、近代化産業遺産)、道修町(漢方薬の問屋から発展)、そして橋等の貴重な資源が存在するため、モデル地域としては、御堂筋を推薦したい。 **⇒「御堂筋の取り組み」に決定**
堺市	2008/12/22 13:30～15:00	堺市役所	・ 堺市では、百舌鳥の古墳等の世界遺産登録を目指している ・ 歴史的人物として、与謝野晶子や千利休等がいる ・ 鉄砲鍛冶などから続く、伝統的な匠の技術が多く、刃物、線香、自転車等が有名 ・ まちかどミュージアムの取り組みも行っており、好評である **⇒「匠の技術及び歴史的資源を活かした観光振興」に決定**

表 3.3 府県政令市ヒアリング結果と概要(3)

ﾋｱﾘﾝｸﾞ先	ﾋｱﾘﾝｸﾞ日時	場所	概要
兵庫県	2008/12/18 11:00～11:30	兵庫県庁	・ ため池で広域的な地域づくりを行っている例や産業遺産の銀の馬車道、劇団など様々な活動がある ・ 菜の花エコプロジェクトというのを淡路でやっており、BDでバスも出している ・ ただし、代表例を出すとなると、バランスが難しいが、結局、代表例としては、コウノトリが全国レベルでわかりやすいのではないか、地産地消の取り組みなど、他地域からも異論がないものと思われ、兵庫県はコウノトリの豊岡市を本物のモデル地域としたい。 **⇒「豊岡のコウノトリを活かした地域づくり」に決定。**
神戸市	2008/12/18 10:00～10:30	神戸市役所	・ いろいろな地域で既にコンサルタントも入るなど、まちづくり活動が活発で、どこを選定するか難しい ・ 候補地について再検討し後日連絡 **⇒後日連絡があり、「兵庫運河のまちづくり」を推薦され、決定**
和歌山県	2008/12/15 11:30～12:00	近畿地方整備局	・ 和歌山県としては、モデル地区に、九度山町を推薦したい ・ 世界遺産である高野山の入口で、女人高野と呼ばれる慈尊院等の歴史資源があり、真田幸村の隠れ里でもあった ・ 富有柿の日本一の品質を誇る ・ 旧清水町では、山椒のシェアが全国で 7～8 割あり、その山椒を使用したお菓子が限定発売された ・ 現在、九度山町まちなか活性化協議会を立ち上げ、「歴史・文化の薫る九度山観光産業の創出」に取り組んでいる ・ その中で、「信州蕎麦」を使った新たな魅力の創出等にも取り組んでいる **⇒「九度山町の高野山(世界遺産)と真田の隠れ里等を活かした地域づくり」に決定**

3.1.2 モデル地域の「本物」資源と取り組みの概要

先の府県及び政令市からの推薦を受けて抽出したモデル地域における「本物」資源と取り組みの概要は以下のとおりである。

表 3.4 モデル地域の「本物」資源と取り組みの概要

モデル地域		本物資源・取り組みの概要
滋賀県	高島市針江地区 生水（かばた）の郷づくり	比良山系の伏流水が湧き出す針江地区は水の豊富な地域であり、人々はこの湧き水を“生水”と呼び、「生きた水」「生きる水」「命の水」として大切に利用してきた。先人の知恵による“元池～壺池～端池”からなる生態系を活かした水浄化システムを今もなお保全・継承しつづけている。 針江生水の郷委員会が中心となり、訪問客や各種団体等の案内、マスコミ取材に対応、藻刈りなどの体験ツアーの企画化、川端のある空き家を体験型宿泊施設に改装し希望者に提供するなど、川端文化の継承とエコツーリズムで地域の活性化に取り組んでいる。 川端 針江生水の生活体験処
京都府	山城地区 宇治茶の郷づくり	日本緑茶の創始者・永谷宗圓ゆかりの地、煎茶の製法の発見、玉露の発明など、この地が日本茶の原点であることを核に、官民一体となってまちづくりに取り組んでいる。 茶の歴史・製法・入れ方・飲み方など、茶に関わる一連の過程1つ1つを地域の大切な資源と捉え、ここでしか体験できない・ここでしか味わえないをコンセプトにまちづくりを行い、また同時に茶の文化を保全、そして次世代に継承する取り組みも積極的に行っている。 宇治茶の郷　和束の茶
奈良県	明日香村 棚田・里山	古代における日本の中心的な遺跡群やなだらかに傾斜する地形に沿って等高線を刻む棚田ゆるやかな山並みに縁取られた農村など、かつての飛鳥京のおもかげをとどめる自然環境や歴史遺産を核にしたまちづくりが官民一体となり展開されている。 特に棚田オーナー制度による棚田の活用やボランティア団体による活発な活動が地域の自然環境保全に多大な影響を与えており、地域内外の人々が協力しながら明日香の資源を守り、育んでいる。 里山 棚
大阪府 大阪市	大阪市 御堂筋	大規模幹線道路の先駆けとなった御堂筋。 100年先を見据えてつくられた開放感のある44mの道幅や自然溢れるイチョウ並木道は、大阪のランドマークとして定着している。 大阪の「顔」である御堂筋が元気になれば大阪が元気になるを念頭に、御堂筋沿いの民間企業が中心となって、まちの活性化・大阪の活性化に積極的に取り組んでいる。 御堂筋 御堂筋 北御堂
堺市	堺区等 匠の技術、歴史的資源等	中世一の自由都市「堺」だからこそ育まれた日本一の職人技は、今もなおこの地に継承されいる。時が流れ、ものづくりがオートメーション化される中、今なお息づく伝統産業における匠の心と技を保全・継承する取り組みが様々な分野で展開されている。 世界遺産登録を目指している仁徳天皇稜や戦災で残った町屋などの歴史的資源と匠の技の組合せによる、着地型観光（まちかどミュージアム、体験観光等）にも力を入れている。 刃物 線香 与謝野晶子 千利休
兵庫県	豊岡市 コウノトリ	野生コウノトリが日本で最後まで生息していた豊岡市は1962年「特別天然記念物コウノトリ管理団体」の指定を受け、官民一体となったコウノトリ保護活動を開始した。その結果、コウノトリの人工ふ化・人工飼育・放鳥に成功し、野生のコウノトリが棲みつくまでに至っている。 コウノトリにかける住民の想いは地域にしっかりと根付いており、あらゆる側面からコウノトリが野生に復帰できるための環境づくりへの取り組みを展開している。 人工繁殖・飼育のコウノトリ （コウノトリの郷公園） 2005年試験放鳥開始
神戸市	兵庫区等 兵庫運河	かつて神田兵右衛門が私財をなげうってまでやり遂げた日本最大級の運河。 近年では貯木場と化し、埋もれてしまっていたこの資源を、地域住民と事業者が一体となり、景観美化に努め、地域住民憩いの場の再生に取り組んでいる。 また、レガッタという水上競技に着目し、環境整備を行った結果、日本ボート協会短水路普及コース全国第一号として承認された。 兵庫運河 新川運河キャナル プロムナード キャナルレガッタ
和歌山県	九度山町 高野山（世界遺産）と真田の隠れ里等を活かした地域づくり	弘法太師が真言宗を開創した聖地・高野山参詣の要所であり、また、真田幸村がかつて隠棲し、再起を誓った地でもある。慈尊院・丹生官省符神社・高野山町石道という3つの世界遺産と真田庵などを核に、官民一体となった観光名所づくりを積極的に展開している。 また、新たな観光資源として“そばづくり”に着目し、「歴史」と「食」をベースにしたより魅力溢れる観光地をつくろうとする取り組みも始まっている。 慈尊院 丹生官省神社 高野山町石道 （世界遺産）（歴史の道百選） （日本の道百選）（県朝日・夕日百選）

3.2 モデル地域に対するヒアリング調査の実施

抽出した 8 つのモデル地域における活動団体等に対して、「本物」資源へのこだわり、取り組みの経緯、取り組み課題等についてヒアリングを実施した。

実施概要は以下のとおりであり、ヒアリング結果の概要は、次頁以降に示す。

表 3.5 モデル地域ヒアリング実施概要

地区名		ヒアリング先	ヒアリング日時	場所
滋賀県	高島市針江地区の生水（かばた）の郷づくり	針江生水の郷委員会：美濃部会長、福田氏 滋賀県	2009/1/27 10：30～14：00	針江生水の生活体験処
京都府	山城地区の宇治茶の郷づくり	京都府山城広域振興局：企画総務部、農林商工部、政策企画部	2009/1/13 10：30～12：00	京都府山城広域振興局
		宇治茶の郷づくり協議会_京都府山城広域振興局：企画総務部、農林商工部、（社）京都府茶業会議所：西口事務局長	2009/2/2 15：00～16：30	京都府山城広域振興局
奈良県	明日香村の棚田・里山	明日香村：政策調整課、観光開発公社、地域振興公社	2008/12/11 17：00～18：00	明日香村役場
大阪府 大阪市	御堂筋	長堀 21 世紀計画の会 （成松相談役、吉田理事長、藤本事務局長）	2009/1/9 16：00～17：30	長堀 21 世紀計画の会事務局
		御堂筋まちづくりネットワーク （竹中工務店：長谷川本部長、大西課長代理）	2009/1/14 14：00～15：30	竹中工務店
堺市	堺区等の匠の技術、歴史的資源等	財政局企画部、産業振興局商工部ものづくり支援課	2009/1/26 10：00～11：00	堺市役所
		堺市役所財政局企画部 観光推進課	2009/2/26 10:00～11:00	堺市役所
兵庫県	豊岡市のコウノトリ	コウノトリ湿地ネット 副代表　佐竹氏	2009/3/9 16：00～17：00	豊島湿地管理棟
神戸市	兵庫区等の兵庫運河	企画調整局企画調整部総合計画課、建設局道路部計画課、兵庫区まちづくり推進部まちづくり課	2009/1/21 10：00～11：00	神戸市役所
		ｷｬﾅﾙﾚｶﾞｯﾀ神戸実行員会IT総務、兵庫運河・真珠プロジェクト理事：大道氏	2009/2/7 10：00～12：00	兵庫運河
和歌山県	九度山町	九度山町：岡本町長、企画公室、和歌山県伊都振興局	2009/1/20 10：30～12：00	九度山町役場

表 3.6 「本物を活かした地域づくり」モデル地区ヒアリング結果概要(1)

地域名	御堂筋(長堀 21 世紀計画の会)	御堂筋(御堂筋まちづくりネットワーク)
ヒアリング日時	1 月 9 日　金曜日　16:00～17:30	1 月 14 日　水曜日 14:00～15:30
場所	長堀 21 世紀計画の会事務局	(株)竹中工務店
ヒアリング対象	長堀 21 世紀計画の会:成松相談役、吉田理事長、藤本事務局長	(株)竹中工務店:プロジェクト開発推進本部(西日本)　長谷川本部長、大西課長代理
ヒアリング者	近畿地方整備局:吉村専門官、林係長 パシフィックコンサルタンツ(株):古田、森田	近畿地方整備局:吉村専門官、橋本氏 パシフィックコンサルタンツ(株):古田、森田
本物資源	御堂筋、4.2km の銀杏並木、南御堂・北御堂をはじめとした神社等	御堂筋、銀杏並木、彫刻
取り組み概要	・ 25 年前から、衰退していくという危機意識から活動を開始した。 ・ 地域の活性化の為に、長堀通りの地下に現在の長堀鶴見緑地線を引く事を考えた。 ・ それに伴い、地下駐車場・商店街(クリスタ長堀)を造った。 ・ 地下は民間の考えるベストの状況にする事ができたが、地上工事の際にバブル崩壊で予算がなく、昔の状態に再現するとの申し出があった。 ・ 地域の活性化をしようという事で協力をしてきたため、到底納得ができず、地上整備は絶対条件として署名運動や座り込みを行なうなど、大阪市とタイトな交渉を続けた。 ・ 当時建設省がシンボルロード事業を立ち上げたため、当時の長堀開発㈱社長がその事業に、いち早く目を付け、中央に行き応分の補助金を確保し、今の長堀通りができた。 ・ 希望からすると 4 割程度であったが、歩道は確かにきれいになった。花博の直後だったこともあり、植栽桝なども季節ごとのテーマを持ち、自動潅水器をつけるなど、色々な緑化に対するアイデアを導入した。 ・ アンケート調査で大阪の都心に公園と緑があまりにも少ないという大多数の意見もあり、地上の長堀通りに公園が造れないか検討しコンセプトを持ち込んだ所、高評価を得たが、結局できないということで現状の形になった。 ・ 都会の地下鉄の駅はコミュニティスペースである為テーマ性を持った綺麗な駅にしたいという事で、地下～地上合わせて 1500 億円のコストがかかったが、大阪がアジアの核都市になる為の宣言としてこれだけの投資をした。 ・ シャネルの社長が、95 年の工事中(オープンカット工法で街がぐちゃぐちゃな頃)に見に来たにも関わらず、96 年に店をオープンさせた。それからフランスの経済誌ル・モンキの取材で 3 ページほどの記事になり、ヨーロッパでも長堀や心斎橋の名前が有名になり活性化につながった。 ◆取り組みの成果 ・ 長堀通りの成功例は、行政が管理している公の空間を思い切って整備することによって地域が非常によくなるという実例をつくったこと。 ・ ソフトの展開としてはオープンフェスタを 9 年前から継続している。	・ 中之島・御堂筋 SBJ 連絡協議会は、中之島－御堂筋エリアの 4 団体(中之島エリアは、中之島まちみらい協議会と京阪八軒家、御堂筋エリアは御堂筋まちづくりネットワークと長堀 21 世紀計画の会)と、大阪国道事務所、大阪市建設局に入ってもらい、今年で 3 年目の活動。毎年国交省から推進業務として支援してもらい、昨年は大阪の東西軸と南北軸一体で活動しているという PR パンフレットを作った。 ・ 河の方は、中之島は関西電力、御堂筋は大阪ガスが中心になり活動している。 ・ 八軒家の方は京阪が活性化していこうと活動を広げている。 ・ まちづくり検討会を年 2～3 回開催。 ・ 部会が 2 つ。プロモーション部会は、賑わいを作っていこうという事で、主にイベント中心。イベント実行委員会が春と秋に御堂筋スプリングギャラリー、オータムギャラリーとしてコンサートやセミナー、講演会をして賑わいづくりの活動をしている。 ・ 都市環境部会は、地権者として国交省や大阪市へ提言活動。御堂筋の緩速車線を歩行者空間にしていけないか、沿道の建物の高さ規制緩和、国交省のボランティアサポートプログラム(平野町外苑)など。彫刻横のフラワーポットが、市の管理が行き届かず枯れていたものを、市と協議して自主的に管理をしている。 ・ 大阪フィルハーモニーが、フィルを街中に流したいということで、公開空地などを会場として活用しながら、非常に人気を博した活動を今までに 3 回している。 ・ 大阪クラシックは、1 週間で 66 公演、毎日 7～8 公演を一週間している。大阪市、大阪フィルハーモニー協会、御堂筋まちづくりネットワークの 3 者で、実行委員会形式で主催。 ・ 御堂筋まちづくりネットワーク単体でも、春と秋にイベント(街角コンサートなど)をしている。 ・ 御堂筋 STYLE(パンフレット)を作成。御堂筋を将来こんな街にしていった方が良いのではと会員で議論してまとめたもの。春は 2 週間、秋は 6 週間しており、会議中毎週木曜日に公開空地やビルのエントランスを使いコンサートや、大阪ガスの社員という事で北京オリンピックの朝原氏に講演してもらうなどした。御堂筋彫刻にスポットをあてたイベントや、イベント期間の初日に彫刻の一斉清掃を沿道の会員でしている。 ・ 今年度はアドバイザー派遣制度を活用し、アンケート調査や勉強会で、地域資源の魅力と課題を報告書としてまとめる活動をしていきたい。 ・ 4 団体の会員に取り組みのきっかけとなるよう、資源に関するアンケートを取る。中之島－御堂筋の魅力が何か、水辺や街路樹など、どこのスポットを見ているのか抽出し課題にできればと考えている。 ・ 自転車走行・駐輪問題が大きな問題であり長堀と協力しながら新しい展開ができればと考えている。 ・ 御堂筋の今の歩道を歩行者専用にし、緩速車線に自転車を走らせ、一部許可車輌は通れるなどの提案をまとめ議論している。国道事務所では社会実験して成果もまとめている。 ・ 荷さばきは御堂筋側では原則的にやっておらず、昔からある小さなビル位である。沿道の建物の高さ制限については、自由度を持たせたセットバックで軒高を守れば建替えが促進できるのではと提案している。敷地の条件が悪い所は現況の容積率がとれないものもあり、御堂筋の新しい魅力を出すには建替えを促進していかなければならない。 ・ イベントでは去年から御堂筋パレードが闊歩という形になり、今年からも実行委員形式でやるとの事で、協力できる事は協力していきたい。 ・ 去年まではイベント系中心であったが、今年から会員の交流事業も行っており、若手の交流を強めていきたいという事で活動している。 ・ オープンフェスタの際にしたルイ・ヴィトンのバナーもはじめて認められ、人気があった。 ・ 活動資金は、各社からの会費 15 万円。まちづくりネットワークとしては関経連から補助金を受けている。設立当初は市から補助を受けており、その後は関経連からであるが、今後はゼロにする予定となっている。

地域名	御堂筋（長堀 21 世紀計画の会）	御堂筋（御堂筋まちづくりネットワーク）
取り組み課題	●自転車問題 ・ 緩速車線の利活用。 ・ 緊急対策が必要な事項としては、御堂筋の歩道の自転車と歩行者を分離。 ・ 駐輪場は植栽帯の下に作り、都会型「未知の駅」（街の情報がわかる、インフォメーションでその日の情報がわかる）など提案をしている。 ・ 中之島－御堂筋を日本のランドマークにする為にどういうことをしていけばいいか。 ・ SBJ 連絡協議会へ淀屋橋－難波までの地域が加入し、緩速車線の有効化などを進めている。 ●組織運営上の課題 ・ 地域住民や民間企業が、地域全体を活性化する為にも真正面から動かないと盛り上がらない。 ・ 日本のシステムは縦割り行政の弊害があり、まちづくりができにくい原因はそこにある。地元住民は自分のスタンスで言うためにまとまらず、まちづくりの検討組織として成立していない。 ●関係機関との調整の課題 ・ 行政としてもまちづくり活動を支援しようとするシステムが大事。 ・ 警察も、最初から何でもダメではなくて、これは現状通りではダメだが、こう改善すれば可能という線を示すなどして、問題解決をするというスタンスで考えてほしい。 ・ 少なくとも駐輪問題・自転車走行問題を解決しようということで、一歩踏み出そうとしている時に、あれもこれもダメでは、結局何も進まない。 ・ 現在、御堂筋を国が大阪市に移管する動きがあるが、やはり、周辺の NPO 等の団体も協議に入れるべきである。	●関係機関との調整 ・ 道路管理者等の協力を得るのがなかなか難しく、前向きに対応してほしい。 ・ 協議会と市から、側道の使い方の発表をされていたが、両者だけで決めずに、大阪クラシックや景観協議会のように、民間団体として参画させてもらい、こういう整備でいくというような将来の方針に対する意見等も反映してほしい。 ・ 民間だけではできない為、市と国とのタッグを組んでいかないと道路空間の活用や街づくりはできない。今まで以上に絆を深めて行きたい。 ●組織上の課題 ・ どこまで会員を広げていくか、NPO 法人化するためには、会員を広げなくてはならず、わかりにくくなる。御堂筋まちづくりネットワークの方は地権者、イベント系の話は広げないとできない為その辺をどうしていくか、イベント会員として広げていき、イベント活動に参加してほしいと考えている。輪を広げていく事が課題である。 ●PRの課題 ・ 全国区の中で御堂筋や中之島のイベントを分離して広報していくことなども検討している。 ・ 御堂筋を軸にして活かしていくべき資源とは何か。彫刻や 4km というブールバールがシンボルロードというのは御堂筋だけだと思われる為、それを最大限活かしたシンボル空間づくりや、ブランド力を高めることが必要である。 ・ 大阪の中心部で行われている民間活力による様々な活動をネットワークの形でつないで相乗効果高めていくことが大切である。
その他	●御堂筋の有効活用方策 ・ 大阪にも、「はとバス」を運行し、大阪の文化スポット巡りするなども面白い。 ・ 御堂筋に音声案内付き 100 円バスを走らせれば、観光客も自由に動け、喜ばれるのでは。 ・ 御堂筋の魅力を活かしていくためには、路地の魅力を作るべきである。メインは立派な道路であり映えるため、まわりに脇役を考えていかないと面白みがない。 ・ 御堂筋でも古いビルを残せばメリットがあるという事を導入するべき。 ・ エリアテーマを設けて、エリア毎に特区化し、エリアテーマに沿った活動や街並みを形成するために、例えば非課税化や固定資産税や事業税の優遇などを導入すべきである。 ・ 公開空地の活用が必要である。 ・ オープンカフェは、1 台 1500 円／日程度の道路使用料が発生するが、出した日のみ徴収（税金などで）するような仕組みが必要。 ・ 絶対残さなくてはいけないものは銀杏並木である。銀杏を使い料理大会をするなどの活用方策の申し出等もある。 ・ 南側の商業地区のまちの汚さはどうにかならないものか。 ・ なんば地区も南海電鉄がまとめようとしたが、まずはエリア全体としてのポテンシャルを上げるということで、まず北側をきれいにするという事を優先することとした。 ・ 以前ルイ・ヴィトンから店の前の歩道を、ルールをのっとった上でデザインさせてほしいという話があった。御堂筋のポテンシャルが上がり、世界中どこにもなく非常におもしろい取り組みになるのではないかとの事があった。 ・ 最低限の条件を更にブラッシュアップしながら、ハードとソフトの展開、歩道と自転車を分ける、沿道の企業が商売をしやすいように誘導する等の工夫で、御堂筋のポテンシャルは上がるのではないか。 ・ 御堂筋は歩道空間を広げ、その中にたまり空間を設けて、色々な仕掛けができるようにしたい。モニュメントが設置されているように、東大阪のテクノロジーを表現する何かを設置し、企業の宣伝効果にもなるようにするなどの取り組みが良いのではないか。また、夜だけ規制して食べ物を出すなどの取り組みも考えられる。 ●知名度向上に向けたアイデア ・ アジアでシャンゼリゼに匹敵するようなモデルストリートとして御堂筋を PR していくことが大切。 ・ 銀杏並木が 4.2km も連なり、スーパーブランドメガショップが集中（58 軒）しているのは世界でも珍しいということをうまく PR していく必要がある。 ・ 御堂筋の南御堂・北御堂や神社など、歴史の継承として残すべきであり、有名建築物なども、残してメリットがあるようなものは残していくべきである。 ・ 大阪も観光地として外に出てもっとお金を使わなければいけない。 ・ 有名であると思わずに知られていないという前提で PR していかなければならない。 ・ ヨーロッパの人に言わせれば、道路としての評価は銀座より遥かに御堂筋の方が高い。アジア全体のマーケットをうまく取り込むことができれば、賑わいの面でも銀座といい勝負になるのではないか。そのためには、銀座とは違うので特区化が必要である。 ・ 大阪にアジアンワールドを展開して、アジアの食べ物や雑貨などを売るのはどうか。安全で楽しめるように地元の人も考え、警備隊を作ったりして、治安維持にも努めるであろう。	◆取り組み支援に対する要望 ・ 取り組みの活性化を図っていく上での支援要望については、まさに PR の所である。 ・ どれだけのエネルギーで最大限 PR できるか。他の団体と共同で PR した方が効果的な場合であれば、それに乗っかる機会がもらえればよいと思われる。 ・ 御堂筋の北エリアは、観光地ではなく集客メインではない為 PR をどうするか、ネットワークエリアで言うと御堂筋のブランドの PR の仕方をどうするかが課題である。 ・ 彫刻も夜は埋もれている為照らすと良い。府が照明柱の広告をやる代わりに、照明を維持する為の資金を募集（セルフ大西が寄付したものと同じやり方）しても良いのでは。イチョウの銀杏落としを北御堂の前でやれないかなど提案もある。橋のライトアップ（銀橋もしている）なども同様である。 ◆取り組みの参考事例 ・ 活動を参考にしている事例として、ダイマルユ（大手町・丸の内・有楽町）、最近では天神地区と博多地区でまちづくり団体を立ち上げて活動が始まっている。広告やバナーを出してその収益をまちづくりの資金へ配分している事例もある。表参道のカエデ会は、改修した時にグレードアップしてほしいと頼んだが、区は予算がなく通常の仕様でしかできないという事で沿道の会が負担し、返済する為に沿道のあいた空間にポスターなどのスペースを作り、スポンサーがまちまるごと一社のスポンサーの広告一色にする等の取り組みにより、収益を上げてまちづくりに活用している。御堂筋であればバナーを活用し、まちづくりや自転車対策に当てると良いのではないかと考えている。

表 3.7 「本物を活かした地域づくり」モデル地区ヒアリング結果概要(2)

地域名	宇治茶の郷(山城地域)01	宇治茶の郷(山城地域)02
ヒアリング日時	1 月 13 日　火曜日 10:30～12:00	2 月 2 日　月曜日 15:00～16:30
場所	京都府山城広域振興局	京都府山城広域振興局
ヒアリング対象	企画総務部　企画振興室:山本副室長 農林商工部　企画調整室:藤谷副室長、丸主査 政策企画部　企画政策課:企画調整担当　洪水主査	企画総務部　企画振興室:山本副室長 農林商工部　企画調整室:藤谷副室長、丸主査 (社)京都府茶業会議所:西口事務局長
ヒアリング者	近畿地方整備局:吉村専門官、橋本氏 パシフィックコンサルタンツ(株):曽根、島	近畿地方整備局:吉村専門官 パシフィックコンサルタンツ(株):森田
本物資源	宇治茶	宇治茶
取り組み概要	・ 広域的な宇治茶の郷づくりの考え方や紹介、宇治茶の郷づくりという運動や事業展開、個別の小さなまちづくりの事例を収集している所などは紹介できる。 ・ 京都のお茶に関するもので茶菓子などの文化を紹介していく際は、京都市ではお茶というテーマでこういう所がある、山城地域ではこういう事をやっているというような紹介になると思われる。 ・ 宇治のお茶はこれだけお茶の文化があり、単なる産地ではないというように PR するのはどうか。 ・ 宇治茶の郷づくりは計画推進の大きな柱になっており、生産部分もあるが、歴史・文化・観光など色々な面で取り組んでいる。 ・ 一部作っていない市町村もあるが、京都府下でお茶の 95～96%位は山城地域で生産している。 ・ 生産だけではなく京都府茶協同組合が宇治市に事務所を構えている。 ・ 組合数は 150 きっているが 8 割が宇治市以南、お茶関係から見ると山城地域については地域産業のひとつ、宇治茶をテーマにした計画づくりが必要であった。 ・ 当初は、景観がしっかりしないとダメ、計画では生産拡大をがんばる事と消費拡大をしなくてはという中で、宇治茶を活かした地域づくり、活性化という事を検討し、生産部分も含めて宇治茶の郷づくりという構想を作り、計画を現在進めている。 ・ 宇治茶は広域的な乾物であり、宇治田原の茶が宇治田原茶、京田辺の茶が京田辺茶というような時代ではなく、大きな意味では山城で作られたお茶は宇治茶であるという事で取り組んでいる。京都府や茶業界としても個別名称が出るというよりは宇治茶という事で PR している。 ・ 宇治茶に高級ブランドイメージがついてきたのは、生産者の努力の結果である。高級な仕上げとしてお茶屋の技術もプラスして PR、普及してきた。他の地域と違う所は、京都は作るだけでなく消費文化があるところである。 ・ 宇治茶は 800 年の歴史があり、ある意味茶道を中心に京菓子や茶器、華道も栄えてきた。 ・ 特に京都の主なお茶は 4 種類(煎茶・かぶせ茶・玉露・抹茶)で、静岡などは 95%が煎茶のみである。玉露と抹茶など高級なものについてはほぼ京都で生産されていると言っても過言ではないと言える。中国から入ってきたのは抹茶の原型かもしれない。 ・ 今の煎茶、日本緑茶というのは永谷宗圓が発明したといわれ、山城の中で今の煎茶の製法が発見されたり、玉露も宇治で発明されたり、山城地域が日本茶の歴史文化があり、他の産地と違うという所である。 ・ そういった宇治茶の歴史文化を打ち出しながら PR したい。それぞれの地域には頑張ってもらい、点であったものを線に繋げるような取り組みをし、宇治茶の郷づくりということで少し広域的に事業展開したいと考えている。 ・ 今は年 4 回、郷づくり協議会で情報誌(宇治茶の郷通信)作っており、表紙に使う歴史文化に縁のある所を紹介する為お寺などに話を聞きに行き、取り組み内容なども話している。 ・ 宇治茶は日本で他と差別化できる。 ・ 茶業協会としても、宇治茶を楽しんでもらう情報発信のひとつとして、お茶の楽しさを知ってもらうための教室も開いている。 ・ 旧の山城町にお茶屋の問屋があり、木津川から神戸へ向かって船でお茶を運び、神戸を起点として輸出していたというように、神戸もお茶の貿易港のひとつとしてあった。木津川は改修され、どこから出港したのかは定かではないが、跡地として碑を建てている。 ・ 歴史文化を活かそうということで、宇治茶の歴史街道研究会を立ち上げて、色々な人が通ったであろうという街道づくりを提案し、それについて歩いてもらう事により観光や物を買うというような事ができないか取り組んでいる。 ・ 協議会で宇治茶カフェを認定するなどの取り組みもしている。 ・ この間 NHK で茶道のハイビジョン番組を 2 時間放送しており、茶道を中心として京菓子や茶器、千利休など関わりのでてくるものを全て関連づけていた。山城も茶の生産という部分で出ていた。	・ 平成 16 年に「山城地域振興計画」、平成 17 年「宇治茶の郷づくり構想」を策定した。宇治茶の良さを発信するために平成 16 年に 5 つの団体で実行委員会立ち上げた。 ・ 宇治茶 800 年の歴史と文化の香りフォーラムをメインとして気運を高めること、各市町村にも理解いただくために、知事も出席したサミットも開催した。 ・ 平成 18 年には、実行委員会＋2 団体で推進組織の準備会を立ち上げ、事業展開を図った。 ・ ①お茶する生活の普及(8行事実施)、②宇治茶の郷からの情報発信(行事多い 10 月に、宇治茶の郷創月間としてスタンプラリー等実施、宇治茶の郷通信を年 3 回発刊、ホームページにコーナーを追加)、③宇治茶の郷づくりシンポジウム(春の大茶会とのコラボ、大学との連携、パネルディスカッション等)を実施し、準備会＋12 市町村で「宇治茶の郷づくり協議会」を設立した。 ・ 平成 19 年度も 18 年度の取り組みを発展・継続。 ・ 平成 20 年度からは、①認定制度として、カフェと手もみマイスター、②宇治茶の歴史文化を活かした街道づくりとして、研究会の立ち上げと開催(2/13 には第 2 回)で、サイン等の検討をはじめ、③10 月～11 月を宇治茶の郷創月間、④宇治茶の郷通信は 4 回/年として、観光PRもしている。 ・ これまでの取り組みは、どちらかというと地元の人々に知ってもらうことに重きを置いてきた。 新住民も含めた地元の人にPRや宇治茶の魅力再発見へ向けた取り組みである。 ・ 平成 20 年度からは、外からの人を呼ぶことも目標に掲げて取り組んでいる。 ・ 茶カフェ認定については、募集が 2/13 までで、現在 5 件受付けている。認定されると茶カフェのパンフや HP で PR する。 ・ 急須で入れることで、香り、味、雰囲気等を体感してもらい、ファンを増やしたい。 ・ 保健所の事業の中の団塊の世代へのセミナーのひとつとして、玉露の楽しみ方講座を行っている。 ・ 各市町村では、独自に茶摘み、祭り、学校で授業(宇治田原)等のイベント等に取り組んでいるところもある。 ・ 宇治茶の歴史文化を活かした街道づくりは、テーマ性を持って、地域に点在する歴史、文化、景観等をつないだコースを設定し、コースに沿ったストーリー展開を、委員会の先生方の意見を伺いながら検討しているところである。 ・ 街道づくりは、検討結果を踏まえて、各地域で育ててもらうことを考えている。 ・ 地域の人とのふれあいの場としては、茶摘み・手もみ等のイベント、入れ方教室、茶歌舞伎(茶の種類当てゲーム)等があり、京田辺市の「普賢寺ふれあいの駅」では、本格的な手もみ体験もできる。 ・ その他、福寿園宇治工房や宇治茶道場匠の館でも体験メニューがそろっている。 ・ 匠の館には、外国人ツアーも入っており好評である。 ・ 景観面では、和束町の風景が有名であり、これらも街道づくりの地域資源として活用する。 ・ 観光ボランティアも既に市町村毎に組織化されている。 ・ 京都府全体での取り組みとして、日帰りツアーにも取り組んでいる。 ・ JRの各駅停車事業等とのタイアップで、京都-奈良間で下車してもらえる取り組みも行っている。 ・ 宇治田原や京田辺では、修学旅行生の茶摘み体験も実施されており、特に普賢寺は大人気で、抽選となっている。修学旅行生がレイクフォレストに宿泊し、体験してもらう等も実施。 ・ ただし、手もみ体験は、短時間では中途半端となってしまうため、少し時間をかけて行う必要があることから、よりコアなファンが増えてきた。 ・ お茶の葉は常緑であり、お茶畑の風景は 10～11 月が一番の見ごろである。ただし、新茶シーズンはネットが張って見られない。(通気性、保温、手間がかかるため、専業農家がほとんどである) ・ 「宇治茶の郷づくり協議会」に関しては、事務局会議(7 名程度)を頻繁に開催しながら運営している。 ・ 宇治に来れば、茶関連のものが直ぐに目に入り、お茶が有名なのは一目瞭然の環境が作られており、来訪者は何らかの形で、お茶に触れることができる。

地域名	宇治茶の郷（山城地域）01	宇治茶の郷（山城地域）02
取り組み課題	・ 急須で入れるというのも日本の文化で、お茶の文化は茶道としてあるが、生活文化として急須で入れるお茶というのを見直すべきである。イベントなどで体験してもらうことでほっこり感や安らぎも含めた PR ができる。	・ 近年は、ペットボトルのドリンク用のお茶が増加しており、リーフ茶は需要減で頭打ちの状況である。 ・ 現在手もみ工程は機械化されているが、お茶は生き物なので、職人がその状態をしっかり見極めながら調整をする必要があることから、手もみ技術を継承していくことが重要である。 ・ 問屋⇒小売という流通形態も、スーパー等への流通等から変化しているが、伝統的に地力があり、茶屋の販売は保っている。 ・ 今後、地域の歴史・文化資源と連携しながら、更に宇治茶の良さ、ブランド力を高めていきたいと考えている。 ・ パンフレットは、奈良線の主要駅、市町村の直販所等に置いているが、宇治駅等では 100 部単位で持っていかれる。予算の都合上、配布できる部数が少なく、PR の範囲が限られる。 ・ 京都のホテル等とゆるやかな連絡会議（30 店程度）を行い、パンフを少数配布しており、ホテルのコンシェルジュが案内してくれている。 ・ パンフレットの取得者は、地元か観光客かは不明である。 ・ お茶で有名であることはあたりまえのことであるが、お茶そのものについては、地元のお年寄りでも深くは知らない人もいるため、そのすごさを再発見してもらい、地域の人々が自慢できるような取り組みにつながればと考えている。 ・ 茶の入れ方セミナー等は盛況であるが、教える方からすると、少人数でやった方が、よりその良さが伝えられると感じている。 ・ 馬籠、妻籠の風情はないが、山背古道という旧道が存在し、この古道の活用も考えていかなければならない。 ・ 団塊の世代がコアファンとして増加してきている一方で、交通の便が悪いこと等もあり、観光客を如何に呼び込めるかが課題である。 ・ 現在の観光ボランティアガイドは各市町村レベルであり、連絡協議会をつくり連携させたいと考えている。 ・ また、永谷宗圓生家を再生し、碑が立っているように、点在する碑等の施設を活用していきたい。
その他	◆調査の位置づけに関する質疑 ・ 山城の地域では、宇治茶の振興と観光を結び付けて活性化していこうという動きがある。宇治茶の郷づくりコースでは、行政と地元の組合が一緒になって作っており、新たに計画を発展させる際に、今回のモデル地区の縛りによって、申請などが面倒になってしまうことを懸念する。また、近畿地方整備局が新たに郷づくりとして山城地域を対象として計画を作り、全く別次元の事で提案・計画のモニタリング・支援があったとしても、現状進めているものと噛み合わないのではないか。 ・ 市町村はこれから地域づくりを進めていくことになるが、計画を進める際に支援はあるのか。 ・ 調査事業として位置づければ、事例の収集とそれに対する情報発信という認識であれば従来パターンであるが、今回は事例発表ではなくプランなのか？	◆宇治茶の歴史的背景 ・ 他との違いは、お茶の発祥の地として、歴史・文化がまったく違うところである。煎茶は永谷宗圓が最初であり、玉露も宇治である。 ・ 栂尾高山寺の明恵上人の勧めで、約 800 年前に栽培が始まって以来、山城地域では広くお茶が栽培され、お寺との繋がり等、京都での需要から発展した。 ・ 静岡（牧の原台地は明治以降）や鹿児島には、宇治茶が伝わったが、高級茶は京都が中心である。 ・ 秀吉時代は宇治茶師として許可制であり、特権が与えられた。 ・ 童謡のお茶壷道中（ズイズイズッコロバシ⇒宇治橋）が有名であるが、昔はお上に献上する茶壷が通る時は皆家に隠れ、大名行列よりもすごいものであった。（茶品評会で再現されていた。）

表 3.8 「本物を活かした地域づくり」モデル地区ヒアリング結果概要(3)

地域名	兵庫運河 01	兵庫運河 02
ヒアリング日時	1 月 21 日　水曜日 10:00～11:00	2 月 7 日　土曜日 10:00～12:00
場所	神戸市役所	兵庫運河
ヒアリング対象	神戸市企画調整局企画調整部　総合計画課:今井主査、森口氏、調整課:田中氏 兵庫区まちづくり推進部まちづくり課:伊賀係長	大道公一(キャナルレガッタ神戸実行委員会 IT 総務　兵庫運河・真珠貝プロジェクト理事) 神戸市兵庫区まちづくり推進部:伊賀係長、松岡氏
ヒアリング者	近畿地方整備局:吉村専門官、橋本氏 パシフィックコンサルタンツ(株):森田	近畿地方整備局:吉村専門官 パシフィックコンサルタンツ(株):高木
本物資源	兵庫運河	兵庫運河
取り組み概要	・ 平成 16 年までは材木が浮いていただけであり、手すりもなく危険であり汚かったため、地域住民が動き出したのがキッカケである。 ・ 企画調整が地元住民にアイデア募集し、平成 17 年より、貯木場においてレガッタをはじめた。 ・ レガッタ自体はマイナーなスポーツであるが、和田岬、浜山、明親の 3 地区が取り組み、年 4 回の大会を実施しており、8 月末の大会では、60 チームが参加した。また、春と秋は地元の大会を行っている。 ・ レガッタの大会は、区が支援している。 ・ レガッタは港総局から水面占用許可を得て、地元住民が全て運営している。 ・ 新川プロムナードでは、祭り、イベント等のコミュニティアップに取り組んでいる。 ・ 兵庫区民まちづくり会議が中心となって、PR 活動等も行っている。 ・ 平成 13 年からの夏から秋にかけて運河祭を行っている。ペットボトルを利用したイカダレースを 3 年位やったが参加者が減少し、19 年からは音楽イベントで JAZZ をやるなど、内容を変えながら開催している。 ・ 防潮堤水族園では、子供の絵等を展示している。これは、不法駐車、不法投棄等が問題となったことから、その改善に向けた取り組みである。歩車分離(ガードパイプ)も実施しており、不法駐車、不法投棄はなくなった。 ・ 平成 19 年より、「兵庫運河真珠貝プロジェクト」が、運河の水質浄化シンボル事業として始まり、春の核入れ、12 月に浜揚げを行っている。 ・ 今年で 3 年目であり、環境教育の一環として、真珠を取り出した後の貝殻を砕いて学校で利用する等の取り組みも検討されている。 ・ 現在は、魅力発見プロジェクトが動き始めている。 ◆これまでの活動の成果 ・ 和田岬、浜山、明親 3 地区の若い PTA が活動をはじめ、レガッタを通じて、まとまりが出てきた。 ・ この取り組みにより、地域の人々は喜んでおり、今後活動の輪を広げていきたいと考えている。 ・ レガッタは土日練習しているが、子供達は平日も集まって、トレーニング等ができるようになっており、地元中学の女子ペアが 2008 年 7 月の全日本中学競漕で 3 位に入った。 ・ レガッタや防潮堤の活動は新聞社が取材に来るようになってきた。 ・ 兵庫運河の活動は、2006 年度日本都市計画学会関西支部の「関西まちづくり賞」を受賞している。 ・ レガッタコースは短く250mであるが、短距離で逆に OB が参加するなどのメリットもあり、ボート協会の短水路に認定された。 ・ 兵庫消防署と、災害時にボートを出すための「防災ボランティア協定:はちどりネット」を結んでおり、平成 19 年には、救助した事例もある。	・ 運河はもともと住民たちには必要のないもの。貯木場として使用されており、汚れて匂うものだった。このため、運河の印象は汚い、臭いものだった(運河の匂いがしたら帰ってきたと思うくらい)。 ・ 運河の存在は人の交流の障害にもなった。交通の便も良くないし、橋の数も少ない、橋の勾配がきつく、行き来の障害になっていた。 ・ 和田岬周辺には、船舶の不法係留の問題があり、船主のマナーも悪く住民とのトラブルも起こっていた(2004 年ごろ)。 ・ こうした中、青年会からボートをやってみたい、という打診があった(2005 年ごろ)。 ・ 当初は、ボートって何？というところからのスタートであったが、震災 10 周年ということで、手厚い支援が受けられたという追い風があり、イベントを成功することができた(2005 年 7 月)。 ・ しかし、イベントの後は誰にも使われず、活動の機運が低くなるという懸念があったが、それではいけないと、無理をして活動を継続させようと取り組んだ。船を係留させてもらうよう交渉し、空き倉庫を利用させてもらう交渉も成立した。2005 年秋には地元だけの大会を開催することに成功。 ・ 国土交通大臣が訪れたことが大きな転機となり、様々な要望を申し入れたところ、「運河の魅力再発見プロジェクト」の存在を紹介してもらい、何とか二次募集で採択されることができ、プロジェクトは 5 年計画で進行している。 ・ ここのレガッタの船は、両手漕ぎに改良している。このため、子供への普及も進んだ。 ・ レガッタコースができてから、散歩する人が大幅に増えた。 ・ ボートを行うには、船をそろえること、設備を確保することなど大変である。当初は全くゼロからのスタートであり、ものすごい手間と時間がかかった。こうした活動には、兵庫区の支援が最も大きい。また、受益者負担ということで、活動する人の持ち出しや寄付で成り立っていた。地域の人がボランティアで手伝ってくれたので成り立つことができた。 ・ 活動を推進する組織を確立するために、神戸市にある総合型地域スポーツクラブを活用した。運河を挟む 3 つの小学校区(和田岬、明親、浜山)で、キャナルレガッタ神戸実行委員会を作った。 ・ 運河を利用して、文化的な取り組みとして「兵庫運河真珠貝プロジェクト」も進行している。2/4 にはアクセサリー教室も開催する予定。 ・ 活動資金は神戸市環境局からの支援が約半分。残りは会費等、活動の中から得ている。 ・ 真珠を育てることは、水質の浄化の効果がある。しかし、最も大きな効果は、水をきれいにする、ゴミは捨てない、という地域の意識醸成である。 ・ 神戸には真珠の会社がたくさんある。こうした会社がサポートしてくれるため、真珠のプロジェクトが成り立つ。地域の強みを活かした取り組みである。 ・ 三菱重工や川崎重工で行われる造船の浸水式は、船が斜めに浸水するもので、スケールが大きく壮観である。市の広報等でも宣伝しており、一般の人も見ることができる。 ・ 川崎重工で作った新幹線の車両を試験的に走らせており、鉄道マニアが多く集まる一つの名物。休みの日にはいろいろな車両を置いてあることもある。 ・ 運河周辺には、日清製粉の跡地、中部下水処理場跡などの開発が行われようとしている。 ・ 店舗利用も一部で行われだしている。 ・ 神戸市では、景観のルールを作って、環境整備を推進していきたいと考えている。 ・ 運河の北側はマンションが建ち、人口が増えてきている。一方、南側は人口が減少している。

地域名	兵庫運河 01	兵庫運河 02
取り組み課題	・ レガッタの倉庫は地元企業から空き倉庫を無償で借りられているが、有償だと苦しい状況にある。ボートのレンタル代を運営資金に当てている。 ・ 今後は、自前の艇庫や照明設備等を整備していきたいとの要望がある。 ・ 運河と住民の係わり合いや運河と企業との係わり合い等によるまちづくりとして知ってもらいたい。 ・ 他事例として、企業がまちづくりに積極的に参画しているような他地域の事例等も紹介してほしいとのこと。（半田市のミツカン：中埜家等）また、産業遺産を活かした景観づくりの事例等も教えてほしいとのこと。	・ 艇庫は兵食（食糧倉庫の業者）の持ち物で、長い期間空いていたものを厚意により無償で貸してもらっている。家賃を払っていたら成り立たないのではないか。 ・ “運河”の知名度が低いことが課題。関心の無い人は近所であっても知らないほど。まずはイメージアップが必要であり、“神戸”のネームバリューが強いので、まだどこもつけていない“神戸運河”の愛称をつけたらどうかと個人的には思っている。 ・ 運河は荷を積み上げるところという企業の意識は根強い。運河を美しくする取り組み（美しくする会）の活動をきっかけに企業（上野飼料）の壁面に絵を書くなどの動きも進みだしている。 ・ 和田岬付近は防潮堤が高く、水面から遠いという課題もある。安全のため、防潮堤は必要なものである。新川運河（南北方向）には閘門が設置されており、水面が高く、水面とプロムナードを近くすることができている。兵庫運河（東西方向）にも閘門をつけることで、水面を近くすることができるのではないか。その方が整備の費用も低くすむのではないか。（一方、東西方向の運河は、水の流れがあるおかげで、水がきれいである。） ・ この付近は、まだまだ“工場”のイメージが根強い。何かポリシー（地区の目指すべき方向性）を持って、地区のイメージを変えていかないといけない。しかしながら、資源が豊富すぎることが、逆にポリシーを作ることを難しくしている。 ・ 産業のまちか？住みやすいまちか？観光化か？住民、企業等関係者が多すぎることも、地区の方向性を定めるのを難しくしている。 ・ 運河の周りに“緑”が少ないことも課題。 ・ プロムナードは鉄道交差部などで途切れている部分があり、連続していない。 ・ 兵庫駅方面へ向かう道路のバリアフリー化が課題。橋脚が高く、歩道はスロープをぐるぐると回ってからでないと運河を越えられない箇所があるほどである。 ・ 歴史をコンセプトにした「兵庫津のみち」は、歩道整備されたが人が多く通る動線になく、あまり人は通っていない。逆に歩行者の多い経路では歩道が十分に整備されていないところがある。 ・ この地区は、観光の面では神戸市内では遅れている。近隣には史跡等も多く、観光化のポテンシャルは高い。運河はレクリエーションよりも観光で活用する方が良いのではないか。 ・ JR 和田岬線は、朝晩の利用しかない。地下鉄も開通しており、地域としては必要ないのではないかという思いもある。廃線を利用しての観光化も面白い。 ・ 産業観光という方向性が考えられる。和田岬砲台は現在、企業の敷地内にあり、正門でお願いすれば見せてもらえるが、積極的には見せようとしていない。企業のセキュリティ強化で余計に入りづらくなっている。 ・ 観光化に向けては、大型バスの駐車場が無いことが問題である。 ・ 運河の南側などでは、新たな開発にあたって、運河に顔を向けるように指導・誘導を行うことで環境整備が進むのではないか（出入口を運河の方に設ける。建物一階をパブリックなスペースにするなど。）。こうすることで、歩いて魅力ある空間になる。 ・ 一つの究極の手段としては、運河を（部分的に）埋めて土地利用しやすくするという方向もあるかもしれない。
その他	◆兵庫運河の特徴 ・ 歴史的には、「大輪田の泊」と呼ばれていた奈良時から良港と知られ、平清盛の時代には宋との貿易拠点となっていた。 ・ 兵庫運河は、和田岬沖での海難事故の多く、明治 7 年から 25 年の歳月をかけて、明治 32 年に完成した日本最大級の運河である。 ・ 兵庫運河は、全長 7kmで日本最大級の運河であり、海運で使っていた。貯木場等があるが、時代の流れで衰退していき、現在は、あまり海運利用は多くない。 ・ 兵庫運河については、沿河のマツダや日清製粉が使っていた。 ・ 現在は、川崎重工業が、新幹線の新型車両を運搬するのに運河を利用している。 ◆地区の特徴 ・ 明治期より造船所や工場が並び、市の中核を担う産業集積地であった。 ・ 重工系の産業で栄え、住宅地と支えあって発展してきたが、近年は活気がなくなっていた。 ・ 川崎重工業試験用の線路があり、新型車両の写真が撮影できるなど、マニア受けのするポイントである。（ビル前の 0 系こだまは有名）ただし、あまり、PR はしてほしくないとのこと。 ・ 貯木場東側には、JR 和田岬線が通っており、現在も朝と晩（5～8 時）に運行しているが、旋回する橋（今は動かない）があり、近代産業を支えてきた。 ・ あまり有名ではないが、歴史的な資源が豊富に点在し観光ルートも形成ており、土日は観光ボランティアを申し込むことも可能。ただし、観光客は少ない。 ・ 勝海舟の設計した和田岬砲台（三菱電機（株）神戸製作所敷地内であり、見学には事前予約必要）もあり、現在企業側と観光ボランティアが見学コースへの組み入れの調整を図っている。 同地区が重工系で発展したこともあり、神戸市としても、産業観光をコーディネートしており、年 2～3 回のペースで実施中。コースには、三菱電機（株）神戸製作所や川崎重工業（株）兵庫工場、神戸市交通局御崎車両基地、兵庫運河、ホームスタジアム神戸等の組合せルート等がある。	・ 将来的には、レガッタのような動きを、和田岬の方でも行いたい。 ・ 企業側は地域の行事等には必ず参加しており、企業と地域の交流は行われている。 ・ 港湾局からは情報提供の依頼がある。

表 3.9 「本物を活かした地域づくり」モデル地区ヒアリング結果概要(4)

地域名	滋賀県高島市針江地区(かばた)	明日香村
ヒアリング日時	1 月 27 日　火曜日 10:30～12:00	1 月 22 日　木曜日 10:30～12:00
場所	針江生水の郷　体験処	明日香村役場
ヒアリング対象	針江生水の郷委員会:美濃部会長、福田氏	明日香村　政策調整課:藤田課長、木治氏 明日香村観光開発公社、明日香村地域振興公社:福田事務局長 奈良県　政策調整課:中井企画員、地域づくり支援課:桜井事務局長
ヒアリング者	近畿地方整備局:吉村専門官、橋本氏 滋賀県:小谷(企画調整課兼総務部財政課主席参事)、浅見(企画調整課参事)、戸田(企画調整課参事) パシフィックコンサルタンツ(株):森田、高木	近畿地方整備局:吉村専門官、林係長 パシフィックコンサルタンツ(株):森田、畠中、小野
本物資源	かばた文化	棚田
取り組み概要	・ “かばた”は 2004 年に里山水辺の紹介(命めぐる水辺)として、NHK ハイビジョンで放映され、世界に発信された。これを見た人が徐々にいらっしゃるようになった。 ・ もともと針江は閉鎖的なところで、来訪者が来ると“何事だ？”という雰囲気であった。当時は子どもが犯罪に巻き込まれる事件が多く発生し、区民が不安に思っていた時期であった。 ・ 紹介された映像を見て、“かばた文化”がすばらしいと理解し、地域の人たちががんばり始めた。 ・ 2004 年 4 月に、委員会を立ち上げる。立ち上げ当時は 26 名のメンバー。ほとんどが若い人であり、来訪者を案内する活動を行った。現在、正会員は 70 数名。協力してくれる方も含めると 100 名以上になる。昨年から針江区と協定を結んで、連携してがんばっている。 ・ 案内ガイドの方は、ゴミ袋を持って、ゴミ拾いしながら案内する。さらに、独り暮らしのお年寄りの家がコースにあれば声をかけて安否確認もしている。かばたの水を守ってくれたお年寄りに感謝し、この地で育ってよかったと思えるふるさととして、自慢できるようになれば良いと思っている。 ・ 活動を行っている70名(正会員)は地区の人で構成される。修学旅行が時には200人規模でやってくる。個人の家を巡るので、一度には 10 名程度しか案内できない。そうなると案内人が足りなくなる。その場合は、地域の人が協力して対応してくれる。 ・ 昨年は、年間 8,000 人が訪れ、売上げも 1,000 万を超えた。右肩上がりである。 ・ 一昨年はエコツーリズム大賞特別賞を受賞。“かばた文化”は日本の原風景であり、里山水辺博物館構想を発表。まち全体を“博物館”に見立てたものである(ハコモノの博物館ではない)。 ・ 琵琶湖に如何にきれいな水を流すかは、我々の責務と考えている。年に 4 回、藻刈りを実施。藻刈り(儲かり)ツアーも実施している。藻刈りは、区民とともに、学生、外国人の方も参加。昨年 12 月の時には、約 400 名の方が参加した。(西ノ湖のヨシ刈りは 150 人の参加であった。) ・ 里山水辺博物館構想では、カエルのいる田んぼなど、昔の姿に戻すことを考えている。この米のおにぎりを配ったり、豚汁を振舞うなど、収益の中からおもてなししている。また、琵琶湖河川事務所も参画してもらい、パンフレットを提供してもらったりしている。 ・ 今回、里山水辺博物館の冊子を作ろうとしているが、写真だけでなく、イラスト(協力してくれる人の得意分野)の形でも協力してもらっている。 ・ 水を飲むコップは、お年寄りの方に一つ 50 円で作ってもらっている。お年寄りの元気づくりにもなる。材料は、竹やぶ再生になるように、竹を間引いたもので作成している。コップを作成する際に、どうしてもコップに使えない部分が残るが、その部分を用いて箸を作っている。その箸を、外食産業の業者が使用したいのでたくさん作ってくれと依頼してきたこともある(たくさん作ることができないので断った)。これらの取り組みを振り返ると、農地、川、竹など、針江の何もかもが素晴らしいと感じる。あるものを活かすのが博物館構想である。 ・ この活動のメンバーには、プロは一人もおらず、現在は組織立て、環境部門、案内部門などを作り、それぞれ責任者を立てて、責任を持って活動してもらっている。 ・ 活動のメンバーは意外と若い人が多い。平均 50 歳ぐらい。農家、サラリーマン、公務員、学校の先生など肩書きは様々。農家の人はほとんどが兼業で、遠くは京阪神で働いている人もいて、できる時に活動している。自分の持ち場を、責任をもってやってもらっている。針江が好き、琵琶湖が好きということが原動力である。 ・ PR 活動はしておらず、マスコミだけである。韓国や台湾のテレビでも取り上げてもらっており、修学旅行生が来る。幸いこの地域には在日の方もいらっしゃるので、協力してもらっている。	・ 棚田のオーナー制度は、明日香川の源流である稲渕地区で実施している。 ・ 作業効率が悪く後継者が不足し、荒廃地がどんどん増えてきて、イノシシの棲みかや、草むらになってしまうのではないかという危惧を持っていた。 ・ そこで、土地所有者や地域だけ維持管理していくのは限界がある地域で、明日香という名前のつく場所で、半分は遊びで、心を癒すという目的で来たいと人に農地を提供できないかと考えた。 ・ 大阪からでも約 1 時間、奈良市内からでも約 40 分で来られる地域なので、空間を提供し都市住民との交流の場として、家族連れで農作業、散策できる場所になれないかと考え、まず地元とその可能性について長い間話をした。 ・ 棚田オーナー制度は、平成7年に実行委員会を立ち上げ、平成 8 年にスタートした。 ・ 田んぼの普段の管理は、水の調整、肥料やりなど、地元の方がインストラクターとなっている。 ・ 1 区画 1 オーナーで、インストラクターとしての報酬を、会費の仲から分配する。 ・ インストラクターは 20 人程おり、稲渕集落の中で、やってもいいという方を募ってやっている。 ・ 田んぼコースは 78 区画あり、新米 40 キロを保障。トラストコースはススキつくり等の農作業体験をするもので、新米 30 キロを保障している。 ・ 田んぼコースが年間 4 万円、トラストコース 3 万円。はたけコースは、花など、収穫物は自分のものになる。 ・ 今月から募集を開始している。リピーターが多い。 ・ かかしまつりとか、彼岸花を題材にしたお祭り、餅つき、秋祭りなど色々やっている。 ・ 村が PR にかかる経費を支援している。 ・ オーナーは県内の方が圧倒的に多いが、大阪の人もいる。職業はサラリーマンが中心で、年齢層は 30～50 代で、家族でくる。個人の趣味ではなく、棚田を家族の遊び場にされている。オーナーには、明日香大好き人間が多い。 ・ 棚田オーナーは、毎月のように来て作業をしている。熱心なオーナー毎週来ている人もいる。また、それが気分転換の場となっている。地域と家族ぐるみの付き合いをされている。 ・ 地元は当初、募集をかけるとどのような人が来るのか不安がっていた。 ・ 土に親しむことにどんな熱意をもっているのかを、面接と作文で地元が審査している。オーナーは毎年更新する。当初からの継続の方もいる。公社は、こういった募集の受付、情報発信、事務手続き等を担っている。 ・ みかんや竹の子はそこまでやってない。みかんや野菜は、個々の農家と契約している。 ・ 棚田、酒米は、地域全体、集落ぐるみでの対応が必要である。 ・ これまでに、新聞での PR、チラシ・冊子の作成、全国を対象にした全国縦断講演会やシンポジウムの開催などを展開してきたが、費用対効果の面もある。「値切って、せびって」が現実だった。 ・ トイレは簡易式の仮設トイレ。バイオトイレを寄付しようという企業がでてきた。 ・ 休憩所は、休憩に加え、着替えができるものを農水省系の補助で整備した。 ・ 宿泊は、民宿がある。40～50 人くらいは宿泊できる。 ・ 農水省の棚田百選に選定され、この度のふるさと百景にも奥明日香として選定された。明日香といえば、歴史や文化財だけが資源ではなく、棚田や活動も財産と考えていたので、これを再生したいと考えていた。 ・ 地元との交流がうまく進んでいる。 ・ 明日香大好きという景観ボランティアが年に 3 回活動を行っている。里山の草刈、植樹、明日香川の草刈など。2 泊 3 日の行程で、自己負担でくる。景観ボランティアは 40 名中 10 名が関東在住。

地域名	滋賀県高島市針江地区（かばた）	明日香村
取り組み概要	・ 針江の応援団は非常に多く、国、県のバックアップは非常に心強い。マスコミも良い方に応援してくれている。日本財団で水の学習プロジェクトが取り組まれるなど、企業のバックアップもある。 ・ 針江はあくまで観光地にはしたくない。勉強する場、癒しの場でありたい。このため、観光会社のツアーは断っており、不真面目な団体も断っている。 ・ 観光客には、受付をしてもらった人に名札を提げてもらう（みどりの紐）。地元の人は青い紐の名札をぶら下げており、不審な人はすぐ分かるような仕組みになっている。かばたを見るには民家に入らないといけないので、受付をしていない人（名札を提げていない人）は写真撮影もお断りしている。 ・ 活動に協力してもらった報酬は、地域通過愛貨（あいか）でお支払いしている。高島市の加盟店舗で使用できる。 ・ 活動の収入源は、ガイド料などの他に、個人や企業の寄付もある。 ・ 針江には三本の水脈があり、それぞれ味が違う。利き水をしながら歩いてもらっている。 ・ 活動を行っている人はボランティア精神でやってもらっている。250 円／時間の報酬しか無いが、文句を言う人もいない。かつては、NPO 化も検討したが人件費が高く、また、一部の人に収益が偏り、不公平感があるため実現しなかった。	・ 景観ボランティアは、地元と交流しながら作業をする。来てもらったら史跡紹介をする。 ・ 最近は、企業の CSR 活動として、竹林整備や荒廃農地の景観形成、さらには果樹栽培を行ったりという活動が出てきた。4 企業ほどある。竹林整備で出た竹は、竹炭や竹酢液などに加工して販売している。 ・ 行政としては、活動をされる企業に呼びかけをしている。森林組合とタイアップをして、一緒にやるというスタイルをとっている。 ・ 作業だけでは面白みがないので、福利厚生の場として、屋台を並べたり、レクリエーションの場となったり。家族ぐるみで、地元集落と一緒に活動している。 ・ ボランティアガイドは平成 9 年から始まっており、現在 38 名。38 名中 15～6 名が村内、その他は村外。非常に依頼が多い。 ・ ガイドの第 4 期生を募集したところ 17 名応募があった。 ・ 明日香の歴史は非常に難しく、月 1 回勉強会を実施している。 ・ 当初からガイドをしている方は情報レベルが高く、図面をどこかで仕入れてきており分かりやすい。 ・ 経験が浅いガイドさんには、知らないことは知らないというよう教育している。
取り組み課題	・ 5 年目を向かえ、現在の活動は順調であり、課題も特にみられない。最近はトラブル対応の必要もなくなって来ている。 ・ 当初は理想と思っていたが、実際に世界に発信することもできた。世界中、アフリカからも人が訪れる。外国の人は、あふれる水がもったいないと言うが、琵琶湖、下流のためにきれいな水を流し続けないといけない。 ・ 有名になっているので、モノを売ってはどうかという意見もあるが、なかなか商品が揃わない。お客さんからこの水を使ったコーヒーを飲みたいという意見も聞くが、現時点では難しい。水の販売はしていないが、許可されているところから持ち帰る人は多い。水を粗末にすると戒めがあると言われており、水を売るようなことは考えたくない。大事に、大事に、子供に伝えていきたい。土産物も針江のもの以外はやめて欲しいと思っている。 ・ 郡上八幡も水で有名で、多くの観光客が訪れる。しかし、お土産物屋の進出や、建物を買い取って入場料を取るなど、大手の進出が目立ち、地元のメリットが無いと聞く。針江では地元の宝を大切にして、子どもに伝えていきたい。	・ インストラクターの高齢化が課題となっている。 ・ 別の地域では、農業につきたいというかたが少しずつ出てきている。 ・ オーナーの駐車場が不足している。古都保存法の関係で、単体の駐車場が整備できない。 ・ 農地面積が狭く、畦が高いため、風水害で畦畔の崩壊がおきる。その農地災害の復旧工事の際、自然工法でやりたいがそれができない。災害の査定官が認めてくれないため、つぎはぎのような見た目となり、苦情がでる。 ・ 古都保存法の規制がかかり、全域が都市計画区域であるため、作業小屋であっても瓦葺や4m道路への接道が求められる。 ・ 荒れている農地や里山が多く、なかなか追いつかない。地道に増やしていくしかない。 ・ 地権者の中で、田んぼの維持管理が出来ない方は、買い上げてもらいたいという人が増えている。すでに県が買い上げて管理しているものが 50ha に上る。 ・ 耕作放棄地の中にも、地元が管理するもの、県が管理（業者発注で花を植えるなど）するもの、地域振興公社が農作業の請負をやるものなどがあるが、預けたら返してもらうのが大変というイメージがあるようだ。次の借り手をさがすことになるが、借り手はすくない。色々やっているが、全体としては、荒廃地が増えていっている。 ・ 中山間集落で空き家が増えてきており、歯抜け状態になっている。農村集落としてのコミュニティの荒廃、農地の荒廃につながっている。 ・ それを食い止めるために、この状況を広報したところ、明日香に住みたいということで、数百件くらい問い合わせがきた。しかし制度としてまだ確立できていない。 ・ 五十数件の空き家が出ており、すべての所有者に意向調査をしている。売ってもいいのか、貸し手もいいのか、詳細な調査を実施中である。 ・ 改修しないと住めないようなものが多い。水周りなどは修繕が必要。古民家などは大きいので、制度としては、改修の負担に対する支援制度がつくれたらと考えている。無利子貸付で、10 年住むという確約をとって、返済してもらうなどの制度を検討中。 ・ 希望者の選定は、地域の活動をして頂けるかどうかがポイント。地域の奉仕活動、例えば神社の維持をするなど、最低限地域のルールを守ってもらえるような人に入って頂けたらと考えている。 ・ 地域活動をしていただける、子育て世代の夫婦あたりを前提条件にしたいと思っている。 ・ 明日香は古都奈良にくらべると建造物がないので、イメージしにくい。目に見えるものとしては、地下遺構がほとんどであるため、心象風景的なものを少しでも分かっていただく努力が必要と考えている。 ・ そのため、歴史学習の場として CG を使って、かつての姿を伝えたりすることを、東京大学と連携してやっている。天皇が変わるたびにどう変遷していったのかなどは、文字がいくら書いてあっても分からない。どういう都であったのか、位置づけ、役割を果たしてきたのかをまず、国民に知ってもらいたい。

地域名	滋賀県高島市針江地区（かばた）	明日香村
その他	・ 針江には自動販売機は（酒屋の一台を除いて）存在しない。おいしい水があるから、それを飲めば良い。逆に自動車を洗う時に水道水を使ったりと、通常の地域とは逆になっている。 ・ 針江はもともと裕福な土地で、母屋の傍に子供が“離れ”を建てて生活し、母屋の空いた部屋を外国人のホームステイで活用していることも多い。 ・ ホームステイは、4,000～4,500 円／泊。宿泊施設は 3,000 円／泊で提供。食材は琵琶湖の海の幸が一年中あり、大変盛況である。おいしい米や野菜もある。 ・ 針江に住んでいる人は、あまり出て行かない。以前からそうである。住み良いから出て行かないのではないか。新しくやってくる居住者も寛大に受け入れている。 ・ 以前は琵琶湖の周囲のあちこちで水が湧いていた。開発が進んで枯れていったところも多いが、針江は幸い残っており、しかもおいしい水である。 ・ きっかけとなった「命めぐる水辺」の番組は、今は DVD でも発売されている。英語版をある。NHK 側も、世界を巡って最終的に針江にたどり着いたという。 ・ 5～6 月には、魚道を通って琵琶湖から魚が遡上してくる。田んぼで産卵する映像も撮れた。 ・ 針江には日本の原風景がある。懐かしさがあり、そのためリピーターも多いと思われる。地元のおばあちゃんと話ができることもうけているようである。“贅沢な時間”を過ごせたという感想も聞く。 ・ うまくいった秘訣は、“針江が好き、みんなと活動するのが好き、針江が自慢”という気持ちだと思われる。	・ 棚田オーナー制度以外に、みかん一本木、大吟醸にする酒米（やまだにしき）のオーナー制度、野菜、たけのこ、柿のオーナーなど、9つくらいある。最初にできたのが棚田オーナー制度である。 ・ 坂田地区ではうまし酒オーナー制度があり、山田錦を栽培している。お酒コースでは 780 ミリが8本、お米コースは米 5 キロと酒 7 本を提供する。200 口あり、ほぼ満杯状態である。年末には、注連縄作りなどのイベントをやっている。 ・ 里山守り隊という団体もあるが、こちらは里山に限定した活動。明日香川周辺の木を伐採したり、広葉樹を植樹したりして、里山をとり戻そうという取組である。 ・ 明日香と飛鳥の違いは、昭和の大合併で阪合村、高市村、飛鳥村の 3 つが合併した。飛鳥を使うと、縄張り争いが生じるため、昔から使われている明日香村を使おうということになった。飛鳥をつかうときは、飛鳥時代、橿原、高取も含めた飛鳥地域の総称として利用している。その象徴が鳳凰になっている。明日香ルビーのイチゴ狩りを実施している。1 月～5 月で 3 万人くらいくる。 ・ 駅前の夢市は年間 2.4 億円売り上げている。原則としてその日の朝取れた野菜が並ぶ。これまでは、公社が村の指定管理者となっていたが、非常に好調で、今年の 4 月からは農地組合法人ふるさと明日香が自主運営することになった。会員数は 310 軒ほどあり、そのうち農家が 270 軒程度。そのうち専業農家は 7 軒。 ・ 夢市は平成 18 年 4 月にリニューアルオープン。あすか夢販売所は平成17年4月にリニューアルオープン。

表 3.10 「本物を活かした地域づくり」モデル地区ヒアリング結果概要(5)

地域名	九度山町	コウノトリ(豊岡市)
ヒアリング日時	1 月 20 日　火曜日 10:30～12:00	3月9日　月曜日 16:00～17:00
場所	九度山町役場	豊岡市戸島湿地管理棟　((仮称)ハチゴロウの戸島湿地の野鳥観察棟)
ヒアリング対象	九度山町長:岡本町長 九度山町企画公室:田村主事、室長補佐、増井補佐 伊都振興局総務企画室:深江主事 伊都振興局産業振興部産業総務課:東浦主査	コウノトリ湿地ネット　副代表　佐竹節夫氏
ヒアリング者	近畿地方整備局:林係長、橋本氏 パシフィックコンサルタンツ(株):曽根	パシフィックコンサルタンツ(株):千田、吉田
本物資源	慈尊院、丹生官省符神社、高野山町石道、真田庵、松山常次郎記念館等	コウノトリが営巣する戸島湿地
取り組み概要	・ 平成 20 年 4 月 14 日に、九度山町、九度山町商工会、九度山町九度山区、南海電気鉄道株式会社、九度山町まちなか魅力アップ実行委員会、和歌山県(企画部総合交通政策課、伊都振興局)で構成される「九度山町まちなか活性化協議会」20 年 4 月 14 日に設立された。 ・ 予算は和歌山県と九度山町の負担金で運営している。 ・ 振興局の政策コンペで「パーク＆ライド」の導入を決め、低炭素化社会づくりと高野山の活性化をからめてスタートした。 ・ パーク＆ライドによって、九度山で車を降りて電車で高野山に上がっていく。 ・ パーク＆ライド事業は、町に駐車して観光してもらい、毎日新聞の地域の特集で見開きページに載る等注目を浴びている。平成 20 年は 9/30～11/30 のパーク＆ライドでグッズプレゼントを行った。 ・ 大阪、岡山、兵庫からの来訪者も多い。 ・ 南海電鉄とも連携しており、平成 21 年 7 月に観光列車を使って「天空」を走らせ、更なる観光客誘致に取り組む。 ・ 「九度山町まちなか活性化協議会」のホームページも立ち上げており、周遊マップやイベント情報、パーク＆ライドの情報提供も行っている。 ・ 「まちなか魅力アップ実行委員会」は、事業展開している組織であり、地域住民のボランティアで運営されている。委員は 37 名で、うち事務局は 6 名、リタイアした団塊世代、60 歳以上の方に参画いただいている。平成 20 年 3 月にボランティアを町内の人に公募募集した。 ・ 地域応援団として商工会会長が、町石造語り部の会にも参加していただいており、年間 1500 人の案内をしている。 ・ 資金面は町と県、活動も今のところ行政主導となってはいるものの、地域住民に参画していただいており、声を大事にしているため、「まちなか魅力アップ実行委員会」も活気がある。 ・ 実行委員会で、六紋銭のプランターを提案され、実行委員以外にも買ってもらうために、ひとつ 3000 円のところを 1500 円で販売したところ、200 個売れた。 ・ 神戸大学の小野寺先生の助言、アドバイス、研修を行っていただいており、まちなかでフィールドワークしている。 ・ まちづくりのワークショップ(住民参加)を実施し、九度山統一ロゴ検討しており、ブランドづくりで意識改革を図っている。真田の六紋銭(武士の戦、三途川渡るのに必要なお金)を考えている。	・活動場所:豊岡盆地全域 ・拠点:城崎町戸島　拠点は((仮称)ハチゴロウの戸島湿地の野鳥観察棟 ・豊岡市城崎町戸島地区の(仮称)ハチゴロウの戸島湿地は、コウノトリが舞い降りる湿地をめざし、県と市が平成 19・20 年度の2カ年で整備を進めている。(4 月オープン予定) この湿地内には、(財)リバーフロント整備センターがコウノトリをはじめ湿地を訪れる野鳥を観察することができる「野鳥観察棟」を宝くじ助成により平成 20 年2月建設。 (この「野鳥観察棟」の大きな特徴は湿地の水面に建物が浮く) ・活動実績:実施している事業　湿地づくり　湿地の維持管理、環境教育 ・事業実績　イベントや学習会、講演会等を実施、基本的には、小規模湿地を自主的に管理している。田んぼの管理が5カ所と　指定管理者　一律の湿地の管理運営、コウノトリのモニタリング　その他の生物多様性を含めて、地域づくりを進めている。・組織体制:正会員と賛助会員とで構成されている。 ・行政からの支援体制としては、管理運営を市からまかされている。 ・具体的な支援はない。兵庫県の地域活性化基金は受けている。 ・調査や活動はやっているが、コンサルタントのような調査はやらない。コンサルタントと組む形で考えている。単独で調査研究できるようなそこまでの研究者はいない状況である。 ・これからの実施事業:この管理棟運営、指定管理業務をしっかりとやることである。施設の管理と環境教育、湿地管理のノウハウの確立。コウノトリが営巣しているのは、こちらで誘導したものである。 ・コウノトリの野生復帰を市民の側からサポートすることである。現在、コウノトリが卵4つ　抱いているところであり、給仕活動、えさを漁協との連携でやっている。　卵はトンビとかにねらわれる。 ・ラムサール条約に登録したい。住民運動として　やりたい　中海、　宍道湖のように ・新たなコウノトリのえさ場を発見して　よりよい生物多様性の場にしていきたい。 ・行政や研究者との連携をしていきたい。 ・外向けは　普及啓発であるが、行動を通したものにしていきたい。

地域名	九度山町	コウノトリ（豊岡市）
取り組み課題	・ 観光の町として、産業の育成をミックスして取り組んでいきたい。 ・ 高野山への入山者は年間 100 万人で、秋が多く、登り渋滞になる。高野山だけでなく、まちの中も散策してもらいたいと考えており、広域観光化を図っていく。 ・ 歴史的資源と観光産業、農業等を結び付けたいと考えている。 ・ 名物づくりとして「そば庵」。本物のそばを栽培して売ることを目指しており、「出石のそば」と匹敵するものにしたい。 ・ 観光地として、名物の食があれば、リピーターが増加に繋がると考えている。 ・ 姉妹都市の長野県上田市との国替え事業として、そば職人を呼び、町民にそばを教えてもらう。 ・ 「真田そば」については、組織づくりはまだ。上田市から専門家を呼んで農地をみてもらう。 ・ 上田市より職人を呼んで、まずは、公社が先にまちなかに店を出し、高野山観光の団体客の昼食として出すことを予定している。 ・ その後、こだわりの個人経営の店を 2～3 軒つくる方向で取り組んでいく。 ・ 平成 21 年度に講師を呼んで研修し、そば打ちの技術を取得。 ・ そば栽培については、平成 21 年度～24 年、遊休農地活用する。林業は壊滅的であり農業が主産業となっているが、高齢化、人口減少が進んでいる。 ・ 職が少ないため、「そばづくり」で生計を立てられるように産業振興を図り、定住人口を増やし、人口増につなげたい。 ・ 高野山へのルートのトイレ設置、そばも含めて全て県との連携でやっていく。 ・ 町及び県としても財政が厳しく、モデル事業として予算をつけて欲しいが予算がない。 ・ やる気のある地域、モデル地域には厚く支援をして欲しい。10 年一昔が 3 年一昔に変っており、スピードをもって次の手を打つことが必要。	・資金繰りがしんどい　NPOで給料 20 万円以上はほとんどいない　法人格をもっても有名無実になっている　NPOで経済効果を発揮できるのは　おかしい　金儲けしているのはおかしい　研究して　安定しているのはどこも難しい。 ・公的な助成制度が　自己財源をどう確保するのか　大きなことができない ・活動の拠点があり指定管理料で基本が入るので、1 人の常勤の人が主婦なら勤めてもらえる程度 ・行政がバックについて官民協働の仕組みでないとNPOだけでは無理 ・本物とは何か　本物をシンボル化してしまって、コウノトリは赤ちゃんを運ぶなどとしていると、本物でなくなってしまう。本物が住めなくなる環境になりそうなので、ここは硬派でいきたい。コウノトリ里公園の方は環境やまちづくりに発展してよい。が、ここは手を伸ばしたくない。しかし、ここは城崎の近くにあり客はくる。 ・ここは野鳥観察棟で手を触れることはできない。規制すると住民の理解をえられないかもしれないが　徹底的にやるほうが　将来的に理解を得られるのではないか。 ・人材が欲しい。屈強な若者とパソコンを使える技術者がほしい。 ・コウノトリをとりまく核の部分をしっかりとやらなければならない。観光は役所に、農業は商業にまかせる。施設は制限する。 ・コウノトリを市長が推進してくれているが、本物の実力をつけないと市長が恥をかく ・湿地を整備したからといって、生物相が深くなったのかというとそうではない。土壌からはじめなければならない。昔の農業をしていた人は、土いじりからやっていた。ここからやり始めなければならない。 ・農薬を使う農業をやり始めてコウノトリが住めなくなった。これを取り戻すのはたいていのことではない。 ・一度破壊されたものが復活するのは、何十年もかかることであるが、ここではしこしことやっていきたい。
その他	・ 核となる地域資源としては、世界遺産である高野山の表玄関・女人高野の慈尊院や、丹生官省符神社、高野山町石道、真田庵、松山常次郎記念館等がある。 ・ 平山郁夫画伯の奥さんの親戚の松山常次郎の記念館。商店通りに面して、平成 19 年にオープン。 ・ 富有柿は日本一の品質を誇り、収穫祭の PR としてテレビのプレゼント等も行われている。 ・ 宿泊施設としては、橋本市にビジネスホテルルートインがある。九度山町から高野山への観光客が連泊。 ◆希望等 ・ 団体客（バス）食事提供、情報発信、トイレ、休憩スペースなどを提供できる道の駅を京奈和道の大野インター周辺に作ってほしい。 ・ バスで来て観光列車に乗り換えるのに橋本駅周辺ではスペースがない。九度山に呼んでここから乗換できるようにできないか。また、団体向け鉄道列車の運行も希望している。	・関東では鶴やトキで連携している。地域の特徴のある生物でまちづくりが進み共通項が進むと　農業も変革するのではないか。 ・何でも保全すればよいということではない。原生的な自然にもどしてもだめである。ここが葦原だけになるとだめである。一定の単層になるとだめ。農業稲作が　豊かになる。人間がいなくなると　荒れ野原になる。竹林になる。単層になって　照葉辞林になるだけ、ゆたかにならない。人間がかかわらないと、少なくてもコウノトリの住めるところにならない。 ・最近コウノトリを利用するだけの人やものが増えてきている。著名な JTB の人が指摘していたが、コウノトリを売り物にだけする人はすぐにわかる。少し話しをするだけでわかる。本質をわかっている人とそうでない人は簡単に見分けがつくというとのことであった。 ・豊岡市の農業をやっている人は、昔コウノトリを絶滅させてしまったという罪悪感を持っており、コウノトリ農業をしていない人たちもコウノトリの取組にはみな理解を示してくれている。

表 3.11 「本物を活かした地域づくり」モデル地区ヒアリング結果概要(6)

地域名	堺市 01	堺市 02
ヒアリング日時	1 月 26 日　月曜日 10:00～11:00	平成 21 年 2 月 26 日　10:00～11:00
場所	堺市役所	堺市役所
ヒアリング対象	財政局企画部:石﨑主査、松岡主査 産業振興局商工部ものづくり支援課:安井課長、辻林主幹	堺市役所財政局企画部:松岡主査 観光推進課:斉藤課長補佐、安尾主査
ヒアリング者	近畿地方整備局:吉村専門官、橋本氏 パシフィックコンサルタンツ(株):森田	パシフィックコンサルタンツ(株):森田、畠中
本物資源	刃物、鋏、堺緞通、和さらし、線香、昆布、堺五月鯉幟などの伝統技術	刃物、鋏、堺緞通、和さらし、線香、昆布、堺五月鯉幟などの伝統技術
取り組み概要	・ 来訪者が、これらの匠の技に触れ、体験できる施策として、製作所の見学等ができる「まちかどミュージアム」に取り組んでいる。 ・ 刃物ミュージアムでは、年間 2 万人以上が来訪し、都市計画学会全国大会が堺であった際には、視察ルートに入るなど好評である。体験もできることから、外国人観光客も増加しており、英字解説も追加したところである。 ・ 2 月に開催されている刃物まつりは、家庭で使用している堺の刃物のメンテナンスができることから、盛況である。 ・ 他の匠の技術とともに、ものづくりマイスター制度を取り入れ、子供達や観光客を相手にその技術を見学・体験してもらっている。 ・ 自転車博物館では、自転車教室をやっており、乗れるようになって帰ることが喜ばれている。 ・ 観光に力を入れ始めており、JTB とも連携し、観光バスに補助を出している。難波でパネル観光も行っている。 ・ モデルツアーもやっており、秋季には、日頃開帳していない寺社仏閣で開帳してもらうなどの取り組みもある。 ・ 旧市街地内ではレンタサイクルや観光サイン設置等も行っており、相乗効果が顕在化しつつある。 ・ ニューヨークで、堺ブランドの紹介を市の主催で行っている。商工会議所と業界とで研究会を立ち上げて、伝統技術も紹介している。 ・ 特に、刃物の海外展開として、和包丁を使った晩餐会も予定している。ニューヨークは女性も料理しないため、海外でも国内ではプロに人気であることが強みであり、海外でもプロをターゲットとしている。 ・ 和菓子作りを体験できるところもあり、小学校で子どもが体験教室に参加し、PTA がその話を聞いて訪れるケースも多くなっている。	・ 目指すところは、堺の街並みと伝統文化を見てもらうこと。 ・ 山口家住宅は、戦災で残った町屋であり、現在市が買い取って改修工事を行っており、まちづくり拠点として本年秋にはオープンする予定である。 ・ プロモーションチームを立ち上げ、地元の旅行会社にプロモーションをお願いし、商品化、ワンストップサービスを展開中。 ・ 市の中心部と仁徳天皇稜を結ぶツアーも右肩上がりとなっている。 ・ 昨年 11 月に、寺院の宝物等の特別公開を実施。11 日間で述べ 3 万人が来訪。 ・ 観光ボランティアガイドの活動も活性化されており、春に開催予定の寺院の宝物特別公開では、ボランティアが中心となって企画。 ・ 来年度から、山口家の運営組織等の母体として、また、町屋の保存・継承等を含めたゆるやかな住民組織を立ち上げ、取り組んでもらおうとしている。 ・ 山口家の土間でクラリネット奏者の稲本氏が演奏する等のイベントを実施したが、今後、山口家を核として、どのように賑わいを出していくかについて、文化課、文化財、企画、住宅まちづくり、区役所と連携して検討中である。 ・ 堺には、大きな歴史と小さな宝が数多くあるが、目に見えるものが残されているのは少なく、個人でまち歩きをしても、新たな発見は難しい。 ・ 基本的には、ツアーで人を集めて、観光ボランティアによるガイド付きで回って初めて発見していただけるもので、その後にリピーターとして個人で回ってもらえるようにすることが理想的。 ・ 堺から文化を発信したいという思いの強い方は多い。 ・ PR に関しては、南海電鉄、JR が、ポスター掲示等に協力してくれている。 ・ 広域広報という面では、7 割が堺市内で、その他が 3 割程度となっている。 ・ 最近は、新聞がよく取り上げてくれるようになった。 ・ 堺ブランドとしての刃物等の価値、単価を上げられれば、大量生産品には負けない。欧米人は堺ブレードとして壁に飾る等、興味を示してくれている。 ・ ニューヨークに堺市の職員を派遣し、英語のパンフレットの配布等行っている。 ・ ただし、堺市としては、まず国内で地固め、次はアジアといった戦略を考えている。 ・ アセアン交流推進室を立ち上げ、堺をアセアンの基地にし、互いの生活とか歴史・文化を理解、尊敬し合える活動に取り組んでいる。 ・ 近畿圏、大阪府と手を組んで PR している。 ・ 今年から関空のトランジットツアーを商品化し、お茶文化や伝統産業など回ってもらっている。 ・ 中国、韓国からの買い物目的の観光客も増加。観光 DVD として、英語版、韓国語版、中国語版を製作し、HP にアップしている。 ・ 千利休生家は裏千家の所有であるが、現在隣接地に市の観光交流拠点の建設を予定しており、今後、点在する拠点を結び、まち歩きの拠点としたい。 ・ 与謝野晶子の民間の資料館として、鉄砲保存会にも所属している方が鳳翔館というものを開いている。 ・ また、町屋を借りたカフェ等も出てきており、路面電車のフリーチケット等も活用して、若い人も乗り降りしながら、スローな感じを楽しんでもらえればと考えている。 ・ 自転車も有名で、高級自転車をレンタサイクルできることから好評いただいている。

地域名	堺市 01	堺市 02
取り組み課題	・ 若者を呼び込むにはどうするか、ルート化されているものの、資源の点在から、その移動空間の面白みが少なく、そのあたりの改善も課題である。 ・ 海外展開が難しく、また、問屋を通すというので、販売ルート開けないという問題もある。 ・ マイスターには、講師料が 23000 円/回、見学は 10000 円/回を堺市が負担して支払っているが、刃物事業所の見学は 10 人位しか見れず、バスの時間が読めないため、予定の時間に来れない等の問題もあり、マイスターの業務に支障をきたすケースもある。 ・ 現役を退くと本物技術がなくなったという、他の職人の目やこだわりもあって、OB の活用は難しい。 ・ 刃物製作は、鍛冶⇒砥ぎ⇒柄つけに分業化されており、ひとり親方が多く、職人の高齢化が進み、後継者の育成が問題となっている。 ・ 生活様式の変化も起因して、苦戦を強いられているのが現状である。 ・ 和さらしは高級品であり、中国製の安いゆかたに押され、売り上げが伸びず苦戦しており、ゆかた以外の用途も模索中である。さらに、水を大量に使用することから、下水処理の為のコスト増もあいまって、近年は職人が減っている。 ・ 天皇陵については、市役所の展望ロビーからも一望することができるが、市民団体等から、天皇陵を上空から見下ろすことに対するクレームも発生している。 ・ 線香組合は、新しい技術を取り入れた業者と伝統技術にこだわる業者に分裂。 ・ シャープの展示館は予定されていないが、今後伝統技術と先進技術とを結んだ産業観光等の展開も考えられる。 ・ 高山のカバンや京都の西陣等、地場産品をどこにでも売っているような状況をつくり、PR していくことも重要である。	・ 町屋については、古い家で、住みにくく老朽化も進み、世代交代で建て替えが進んでいる。 ・ 個人の財産で、点在していることから、面的な規制は困難で食い止める手立てがなく、特に文化人等が危機感を持っている。 ・ また、町屋を保存・活用したい人をどのようにバックアップできるかについても検討中。 ・ 町屋を残すには財力が必要であり、一概に規制をかけるだけでは、住民は納得しない。如何に住民の意向と望ましい姿をマッチングするかが問題。 ・ 空き家となっている町屋の活用として有効であるが、家主も第 3 者に貸すことには抵抗を感じており、町屋バンク等を構築して、賃貸等の仕組みができればと考えている。 ・ 町屋活用事例、住民主導での取り組み、補助制度等の参考事例等がわかると良い。 ・ 観光客の年齢層は、高齢者団体が多く、個人でも来ていただいているが、色々な世代に来てほしい。 ・ 体験観光として伝統産業を体感していただく際の問題としては、土日が仕事休みで対応できないこと、また、鍛冶の場合には材料費をマイスターが負担していることから、マイスターの生活・仕事上も負担を強いてしまっている点。 ・ サイクルツアーに関しては、観光客の年齢層が高いこともあり、乗りやすい自転車と簡単な案内が望まれ、IC タグや携帯を利用した案内は難しい。
その他	・ 堺市には、「本物」と呼べるものは様々あり、伝統技術もそのひとつである。 ・ 元々鍛冶技術が発達していたこともあり、代表的な技術として刃物があり、和料理職人の約 9 割が堺の包丁を使用している。 ・ 鋏もそのひとつで、植木職人が愛用している。 ・ 堺の刃物はプロに好まれるが、手入れが大変であり、一般家庭での使用は広がっていない。 ・ 堺緞通（分厚い絨緞・ラグマット）も堺を代表する匠の技術であり、産業振興センターで機械を置いてあり、見学ができる。高価なものであり、現在は受注生産となっている。 ・ 堺の和さらしは、注染の技法により、表裏おなじ柄になるという特徴がある。大阪、石津川毛穴地域においても同様の技術があり、大阪の技術である。 ・ 淡路では有名な線香（大きな会社が機械式で生産）も、堺が発祥地である。（昔の貿易港であったため、海外から入ってくるものが多く、堺発祥が多い。） ・ 堺の線香も、近年はお香の方に力を入れているところも出てきた。 ・ 昔ながらの製法を守っているところと、機械化に変更したところとある。 ・ 近年は、原料が手に入りづらく、中国製が増加しているが、天然原料の量で値段が違う。 ・ 堺の昆布については、その加工技術（他にもあるが）として、削り取り刃物を使用した手すき技術で有名である。その昆布にこだわり買い求める顧客も多い。 ・ 名古屋から伝えられた堺五月鯉幟も伝統工芸品であり、金太郎が乗っているのが特徴。3 代目に入っており、小さい鯉幟やストラップも作っている。 ・ シマノに代表される堺の自転車も有名であるが、近年は輸入品（中国）に押されている。（完成品の 9 割が輸入品）	・ 堺市の伝統技術として、刃物、線香等があり、刃物は料理人の 8 割以上が使用。 ・ 堺市のイメージとして、体験観光が定着しつつあり、刃物の鍛錬の様子が見られたり、刃物ミュージアムでは、砥ぎ体験により、マイ包丁製作も好評である。 ・ お香クラフトとして、香木練りこんだもので、バラの花を作ったり、和菓子製作コース、お寺での座禅コース等、着地型の観光が人気。 ・ 観光専門紙の「トラベルニュース」では堺観光は高い評価をいただいているので、何とかしていきたい。 ・ 堺市では文化観光再生戦略プランに取り組んでいる。